

途上国と資金・技術

FoE Japan
小野寺

バリ行動計画 1/CP.13

- パラ1.(b)緩和.(ii) Nationally appropriate mitigation **actions** by **developing country Parties** in the context of sustainable development, supported and enabled by technology, financing and capacity-building, in a **measurable, reportable and verifiable (MRV)** manner; (強調及括弧内追記)
- 以下パラ1.c. 適応、d. 技術、e. 資金 のサブパラに続く

必要と見積もられる途上国支援の規模（例）

2030年に世界排出量を現状に抑える為に追加的に必要となる途上国での年間投資及び資金フロー額見通し

緩和 1762億ドル

- 必要な世界投資額の46%

適応 280～670億ドル

- 世界見積の約1/3、8割はアジア途上国で必要

UNFCCC Investment and Financial Flows (2007)

AWG LCA交渉体制

- 交渉グループの設置
 - 適応（技術及び資金含）
 - 緩和（技術及び資金含）
 - インスティテューショナルアレンジメント
 - ✓ 当初アンブレラが抵抗、中印等も懸念し議長コンサルで週末迄持ち越す

各種メカニズム提案その後

- メキシコ多国間気候基金提案 (サブミッション参)
- 韓国拡大CDM提案 (サブミッション参)
- ノルーウェー提案 (サブミッション参)
 - » A A Uオークション
- ノルーウェー提案 (サブミッション参)
 - » 国際船舶
- スイス提案 (サブミッション参)
 - » International CO2 Levy
- ツバル提案 (LCA REDD WS)
 - » 国際運輸対策によりREDD / 適応基金設立
- G77+C資金メカニズム提案 (LCA)
 - » COP決定、COP下理事会、A I国GNP0.5-1.0%拠出
- G77+C技術メカニズム提案 (LCA後提出)
 - » 資金提案の補完、技術補助機関EBT、技術基金(MCTF)
- 適応フレームワーク・アフリカ提案 (LCA)
 - » OPEC介入でG77+C提案とはならず

主要論点

LULUCF、REDD関連除く

- LCA:トランスバンダリーセクターアプローチ（日欧）
 - セクターベースの協定、セクタークレジット、セクターCDM、効率/原単位目標等、国際競争力・知的所有権、オフセットか追加的削減か、MRV等
- LCA:非附属書I国ディファレンシエイション
 - 欧州：非附属書I国サブグループ化を提案、日豪：OECD加盟及申請15ヶ国、一人当たりGDPベース、LDC、SIDS除など。メキシコ含め途上国は反対。COP決定でのサブグループ化、Annex I, Annex B改正等具体的方法論は未だ。
- LCA:条約枠組外での資金及び技術の国際的取り組み
 - 条約A4.1c/A4.5、公的資金と民間投資拡大、MRVとA4.3など
- AWG KP/LCAとBAPマンデート
- AWG KP:スピルオーバーエフェクト
 - 国際貿易、食糧安全保障、先進国のバイオ燃料政策のインパクト等
- LCA2009作業計画
 - 3/4月、6月、9月いずれもボン10日セッション。LCA5で緩和と農業部門の2ワークショップ。ポズナン迄議長コンサル継続。

今後のAWGLCAプロセス

- LCA1-3の議論を受け議長がテキストを準備
(webへupload?)
- サブミッション (9/30迄)
- テキストアップデート
- 追加サブミッション
- COP前にテキストアップデート
- COP中に更に改善 (交渉テキストとなるか?)
- COP14では今回の3グループに加え長期目標
(Shared Vision)の4交渉グループを議長提案

ポズナンCOPでの争点

- 先進国全体の中期目標のレンジ
 - 90年レベルからの-25~-40%
 - 長期目標
- 途上国支援提案への先進国の歩み寄り
 - 技術、適応、REDD、資金メカニズム
 - 国際セクターアプローチ、非附属書I国の扱い等